集市 元豆六吊百至六吊二百
紅糧價錢五吊四百文至五吊
市共上車三十餘輛
邊車共來七十餘輛
元豆六吊九百至六吊八百

一連紙 一フールスカップ 仝 一中判洋紙 仝 一半紙野紙 百枚 一卷紙 四十枚綴
四圓 二圓 二十錢 十二錢
一煙管 一卓子 一卓子掛 一廚房用戶棚
三十圓以上三十五圓 四圓五十錢以上十三圓五十錢 六圓以上十二圓 七圓五十錢以上十圓
一長火鉢 一箱火鉢 一宜德火鉢 一對
二圓以上三圓五十錢 六圓以上九圓

Payable in Advance. Postage Included.
*The Manchuria Daily Report Office.*
*Newchwang.*
Telephone No. 29.
發行所 淸國營口中盛街 滿洲日報社（電話二九番）

# 滿洲日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人井無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日者每行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議
從減 每張四百文

特別廣告
資本金貳千四百萬圓
積立金一千壹百五拾萬圓
本支店出張所
橫濱 神戶 東京 長崎 大阪
倫勅 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺
電話 十番 支配人室 百八番 事務室
橫濱正金銀行牛莊支店

日本郵船株式會社 瀛船出帆廣告
千代田丸 二十一日 門司行
營口丸 廿四日 仝
乘船切符發賣は出帆前三時間マデ 未明出帆ノ分ヘ前日午後五時マデ
營口代理店 旗昌洋行（電話二十六番）

瀛船出帆廣告
日勝丸 二十日 門司、橫濱行
御代丸 二十日 門司行
日の出丸 二十日 大連、長崎行
鎭海丸 廿三日 門司、橫濱行
萬成源丸 龍口定期
乘船切符は弊行にて發賣仕候
松茂洋行船舶部（電話五二番）

新荷着
朝日ビール、スペシャルライト
廉價販賣仕候 滿洲一手販賣元
松茂洋行商品部（電話五二番）

大阪商船株式會社 營口瀛船出帆廣告
盛航丸 廿七日入港
能登丸 廿日門司神戶行
代理店 ブツレニ兄弟商會 東營口公園地横 遠來洋行（電話二十三番）

宅洋行
啓者敝行專賣綿紗粗布綿綵布荷花標布東洋緞子紋緞子布手巾花巾洋胰火柴鐘表等類價值格外克已並且貨眞價實以致敝行名譽日增前蒙官許在牛家屯設立鐵道運輸營業以便貴客就近辦理各項事宜於敝行推廣招徠之意愈覺著明所有華商賜顧本行專聘熟悉商情之華人宋厚田氏細心接洽欵待周詳倘可面商一切事宜幸中外士商鑒其誠實無欺惠臨賜顧爲勝榮幸之至 總司理人 田中賴之助謹白
電話（店一八三番 住所五五番）
開設老爺閣街同盛德院內

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣地租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房方寬大凡粕輪船一船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼營有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷 總司理人 葉亮卿謹白

東永茂
機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之 正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外 士商賜顧者請認明招牌決不致悞 本主人敬啓

仁裕號
係裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨煤石等也備 營口西大廟街路北警乙第十三號

丸三洋行分莊
啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手巾東洋緊身洋式褂子以及各樣雜貨俱全無不精美價値格外從廉賜顧者請光臨本行面閱是幸 丸三洋行分莊謹啓

永順洋行
本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許設運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議
西北街 東櫃（電話九十五番）
西義順棧內 西櫃（電話九十八番）

代代木烟公司
本行專售 日本官造紙烟 星象牌（斯達）櫻花牌（拙利）百合花牌（利利）均已馳名內外玆特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）清香撲鼻佳美適口而價値極廉 諸尊欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

本行瀛船 摩耶山丸 頼朝丸 專往東洋各埠
啓者本行開設在東營口輪船代理店海上火險公司及報客稅已有年矣今承關東總督府之特准開設東淸鐵路公司運送貨物自牛家屯大連至昌圖府均有分棧大連鐵嶺另有分行幷各有中國人辦事今又設理雜貨生意專辦上等石炭棉花火柴洋布旭牌卑酒日本淸酒一概俱全另有淸國人執事如蒙中外士商光顧請來元神廟街爲荷 松茂洋行（電話五十二番）

矢野洋行
啓者本行開設營埠已週一載幸蒙貴客商愛顧接踵購買致敝行名譽日增不勝榮幸現將發賣各種罇詰味噌醬油以及磁器油器傢俱東洋綢緞帽子手巾地毯洋傘團扇玻璃鏡暨婦女一切妝品胰皂皮包皮箱等類物美價廉核實輕減定價不二貴客賜顧請玉臨面議可也
營口元神廟街 電話百三十七號 本行主人啓

三井洋行 電話 第六十六號 第九十一號
啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗、棉布、火柴、煤炭糖、海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷
○發售新到洋白糖

倉庫部
今回倉庫所在地（靑堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は同所へ御照會被下度願上候（電話百二十八号）

經理
○明治火險公司
本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議
○發售、日本白米、
○東京水險公司
啓者本公司開設在三井洋行內已久實存資本百五十萬元、分行、新加坡、倫敦、孟買、天津、上海、香港、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保平安、水漬、兵險者、請駕至本行面議
洋行 電話 第六十六號 第九十一號

㊊ 鐵道遼河裕和盛運輸局（電話八十一號）
在東營口西北街旗昌洋行對門
啓者本號向在日本長崎開設數十年幷店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車今又承辦東淸鐵道運輸局代客裝連貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧
總司理主人 周鶴雲 運輸部主任 高濱麟太郎 謹啓

飯塚工程局材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧局急之需 局本主人啓

遼河運輸同濟公司
本號經官准由營口包運東淸遼河各埠車船貨物凡客商有運之貨與交本號及各處分莊運送決無悞失如蒙 貴商光顧者請至本號面議特仰週知
東 營口南永世街北斗洋行 櫃開設
西 營口西北街塘子胡同內

上海 中井洋行 專運日本各式紙料
本行開設已歷多年曾與日本製造名廠有專銷之約凡新聞紙料印書糖各式紙莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售 貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也 中井洋行

志岐組 木料棧 材料出售
啓者本棧開設鎭口永安街專售鴨渾兩江之各種木料品質精良價値格外從廉克已凡中外士商光面議願請到本棧

工 營口元神廟前 飯塚工程局材料部（電話百三十五番）
弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

丸重洋行 貨物運輸
啓者本行前在營口臺賣雜貨已有年今經關東總督府之特准開辦東淸鐵路運貨不論貨種多少以安全迅速誠實廉値籌貨主之利便爲旨如蒙中外士商光顧請來分莊面議不悞 營口西北街本洋行或牛家屯火車站構內
電話 營口 四拾八番 牛家屯 四拾六番

廣告
大阪鐵田組支店開設
今度新に內地より技師及職工を傭聘し土木建築一切の受負業務開設候に付大小に拘らす御注文の程奉祈上候
假事務所營口西北街高砂ホテル內
主任 鐵田米吉

今回海陸連絡の便を計る爲め當行瀛船頼朝丸、摩耶山丸、第二攝海丸中國丸の四隻を以て大坂、神戶、門司、大連、營口間を定期航海せしめ滿洲內地には左の箇所に出張所を設け海陸及輸送輸出入品委托販賣業に從事仕候に付き陸續御用仰付被下度候也
猶東淸鐵道各驛に代理店を設置し御便利相計り申候
本店 大阪市西區西道頓堀貳丁目 河邊商店
支店 營口元神廟街 松茂洋行
大連信濃町百十一號 松茂洋行出張所
奉天小西門外大街路 松茂洋行出張所
鐵嶺西門外 松茂洋行出張所
昌圖府驛 松茂洋行出張所

東京電報

●諸大官の臨席　豫報の如く鐵道祝賀會臨席の爲め兒玉大將山縣遞相石本次官平井山之内長官等今朝新橋發名古屋に向へり

●境界委員の任命　陸軍砲兵大佐大島健一樺太廳界確定委員長に渡邊砲兵中佐外三名委員に仰付けられたり

●シツフ氏の出發　シツフ氏十八日横濱發バンクーバーへ向ふ井上伯高橋日銀總裁船迄見送る

●速風の進水式　大阪鐵工所にて建造中の驅逐艦速風二十二日進水式擧行

●外交官の異動　林大使の外相就任と共に外交官に多少の異動あるべく小村男は駐英大使に林權助氏は駐清公使に珍田次官は駐墺公使に内田公使は外務次官に轉すへしと

●滿洲博覽會のお流　▲商業會議所委員の直話に據れば滿洲博覽會の計畫は多分お流れに爲るべしと

(以上五月十九日發電)

北京電報

●吉長鐵道の中止　長春吉林間鐵道は吉林將軍自ら之が敷設を實行せんとしたりしが外務部より右は日清協約に違反すれば中止せよと命せられ中止の姿と爲れり

●西藏條約追加條項　英清西藏條約追加條項に若し或他の一國にして新疆伊犂に兵員派遣の事あらば英國は西藏に出兵保護に當るを得とあり

(以上五月十九日發電)

倫敦電報

●ブーロン獲得は無根　ランシマン氏は下院に於てボルネオの東南に於けるラヲツト島のブーロンを獲得せりとの報は無根なりと言へり

●新嘉坡築港工事　井ンストンチャーチル氏はシンガポール商業會議所は同港築港工事に反對して意見を具申せしもエルヂン卿は此意見が商業社會の希望を代表することを信せず自分(チャーチル)氏はロンドン及シンガポールに於て十分熟議の結果專門技師の計畫に依りて工事を繼續するを可とし躊躇する理由を發見する能はずと言へり

●日本協會の例會　リーズデール卿(以前フリーマン、ミルフヲルド氏)は日本協會の毎年例會の宴會に於て會主となり其席上に於て日本皇帝がガーター勳章捧呈委員一行を盛に歡待せられしことを述べ且つ日本の多くの點に付て時勢に先だつこと一百年なりと演説せり陸奧伯及載公其他有名なる日本清國の人士列席せり

(以上五月十七日發電)

●露國議會の近狀　露國議會は勅語の趣旨に就て細かに討議しつゝあり發言時間は五分間に限らる誇大なる議案を提出する者多し

●米國の鐵道運賃表法案　米國上院はルーズベルトが鐵道賃銀表法案に對する態度を非難す共和黨はルーズベルトが其言を食みて共和黨に對し讓歩の後合衆黨の黨議を採用せしを責む

●關税問題と英議會　グレー卿は下院に於ける演説に於て清國政府は税務大臣を任命せしは事外交上に關係なく清國は税務大臣に税關の監督權を與ふる權利を有す又清國政府は一八九六年乃至一八九八年國債償却迄は税關の組織を變更せざるへしとの約束を無視するの念なし

(以上五月十八日發電)

雜報

●勳績調査進行　陸軍に於ける勳功調査の順序は各中隊長に於て部下の小部隊長以下の武功を申立て大隊長は部下の中隊長及副官等の武功を申立つると同時に中隊長の申立書に意見を附し以上聯隊長、旅團長、師團長、軍司令官は各〻其部下の武功を申立て同時に何れも申立書に意見を付し之を勳績調査委員に付せらるゝ都合にて既に全部の申立書は勳績委員の手に移りたるも右の申立は調査の後之を淘汰して均一公平を歸せしむるには尙兩三箇月を要す可しと云ふ

●長吉鉄道と露國　長春吉林の鐵道は吉林府に於ける清國紳董の資本により敷設する筈にて奉天將軍趙爾巽の允諾を經たりとの事なるか右資本なるものは露清銀行よりの借款に成るものにして實際露國官憲が吉林府紳董を誘引して其資本を貸與し他日日本に向つて高價に賣附けんとする陰謀に出たるものなりとの説あり

●米國海軍の躍進　米國代議院は昨年度に於て海軍擴張案を可決し既に艦船の建造に着手し千九百十年に至りて竣成すへき豫定なるか同年に至らは獨佛兩國の海軍と畧伯仲すへき海軍力に達する由即ち佛國の戰鬪艦三十隻、獨國の戰鬪艦二十四隻に對し米國は廿九隻の戰鬪艦を有することとなり其内十五隻は何れも一萬三千噸乃至一萬八千噸を有するものなりと

●北清の各國駐屯兵　清國にて調査したる所によれば北清各地に駐在せる各國陸軍兵數左の如し

| 國名 | 將校 | 下士卒 | 國名 | 將校 | 下士卒 |
|---|---|---|---|---|---|
| 英 | 一二三 | 二、一五五 | 獨 | 一三四 | 一、九一〇 |
| 佛 | 八八 | 一、六四三 | 日 | 五七 | 一、一二一 |
| 以 | 一六 | 二九四 | 露 | 七 | 二〇〇 |
| 墺 | 六 | 一七五 | 米 | 四 | 一〇一 |
| 計 | 四三四 | 七、六〇九 | | | |

●義勇艦隊の盛況　曩に地方官會議の際原内相より帝國義勇艦隊速成に關し訓示する所ありたる結果各地方官は何れも歸任早々大勸誘に着手したるか中にも山口縣の如きは早くも既に三萬八千餘名の會員を得たる旨の通知ありたるを以て同艦隊本部にては此機を失せず一層の好結果を收めんとて不日理事長有地海軍中將等出張して各地に巡回講話をなし引續き關西各府縣下に第三回の大遊説を試むる筈なりと

●外務の移民保護　目下外務省に於て移民保護に關し新に計畫する所あるか今其計畫の内容に就き洩れ聞く所に據れは布哇の本邦移民の保護上に大變更を行ふ由にて其變更の結果として現在本邦各移民會社より布哇に派出し置く代理人の如きは今後悉皆不必要なるに依り之を廢止せしめ移民直接保護を同地駐在總領事の手に移すに至るへしと

●露國皇子の事　加奈陀の一新聞か露國皇室の一大事として報する所に據れは曩に御誕生ありたる皇子は聾唖の上に非常の小腦にあらせらるゝに據りて皇帝は之に皇位を繼承せしめ難しとの思召にて是れか爲皇位相續法を改正せらるべしと云ふ

●珍客め滿洲談　珍客の一行已に滿洲の視察を終へ歸來馬關大吉樓に於て客に語る所概要左の如し談片中山座局長を缺けるは一行と別れて鄕里筑前に赴けるを以て也

▲佐藤砲兵中佐　予は戰役中第二軍參謀たりしより一行の道案内に雇はれ滊車の便ある所は何處へも先導したか三等客車又は輕便鐵道の穢いので宿舍も貴族の旅行には不便ならんと察せしに何れも平民的にて毫も差支なく元氣てありしは滿足であつた

▲酒勾農務局長　已れなどは附いて廻る丈で伴食だから新しい觀察は無いが到る處勇壯進取の氣象藝妓醜業婦はもてはやされ成効してる之は業體を問はず兎に角滿洲開發に貢獻する功績の第一に數ふへきで心から感服した

▲若槻大藏次官　先月十四日東京を立ち來る十四日東京に入る一箇月の旅行で滿韓事情が判りさうな筈はないが先づ滿洲の雨に遭つて道路泥濘の模樣も見たし大旋風に遭うて沙の滿洲も經驗した昌圖迄往たのも一二あつたが其他は奉天に止り滊車便のみで田舍は何處も見なかつた

▲珍客の頭領　奉天で趙爾巽と會見した從來滿洲人の專任に限つた要職を支那では稀有の異例を作つて漢人たる彼れが襲ふた程の人物だから中々聰明の英才と見た滿洲の政治は積年の弊習により紊亂其極に達して居るので彼が鋭意革新の熱誠は誠に其苦心察せらるゝ民度低く官吏皆蒙昧頑愚だ故に獨り彼れ其弊根を斷ち官規の振肅を計らんとするも奏効捗々しからず彼是故障あるは是非なし、兵亂に蹂躙されし山河全く舊に復し野は一面に耕され更に痛める模樣なし是れ實に滿洲の特色と想ふ東洋の富源と着目されし數度の兵亂で總ての進歩遲るゝのみならず種々啄き廻され民は横着になり官吏は疑ひ深く誠を打明けぬ風歴々たり能く譯の分る樣に親切に遣らねば今後の經營に不得策と想ふ兵隊は皆達者で病氣もなし各方面巡視の聯合行脚で面白かつた

●遼陽短信　綠城生

▲三營業の制限　昨年當地の開放と同時に邦人の在住を許さるゝや幾多の商人潮の如く入り込みたるも料理屋旅館等多數を占め今に尙雨後の筍の如く此の種の營業を出願する者多く殆ど其底止する所を知らさる摸樣なるより遼陽軍政署は同業者の斯く夥多なるは將來相互の不得策となし且取締上今回左の如く制限を付せられたり

一、旅館料理屋飮食店の營業者は他營業に比し其數比較的夥多なるを以て其數を減少するの必要上新營業を許可せず尙今後現業者にして若し本營業を他人に讓渡したる場合に於ては直ちに該營業を取消し仝時に效力消滅す

一、居住營業の許可を受けたるものにして二ケ月以内に開業をなさず或は開業認可を受けたるも其實自身開業をなさず密かに名義を他人に貸與し陰に利益を貪るものは假借なく其許可を取消し成規の處分に問ふ

▲退去處分　遼陽城内土木請負業東清公司内に在住する大分縣大分町三十七番地平民無職中山喜四郎(三十九才)は秩序を紊る不正行爲により一ケ年間關東總督府管轄外に今回退去を命せらる

▲正金銀行出張所　當地は十六師團本部の所在地として國庫金の取扱ひは言ふに及ばず其他經濟方面に於ける必要上正金銀行出張所を設けらるゝ風聞ありしが夫れかあらぬか頃日同銀行の小貫副支配人外一名來陽し今に滯在種々奔走中の由なるか同出張所は喇嘛塔下高田洋行家屋に決定せるもの丶如しと聞けり

●北清在留邦人現數　天津總領事館管内に於ける本邦人員に關し其筋の調査に據れば四月三十日の現在左の如し

| 地名 | 戸數 | 男 | 女 |
|---|---|---|---|
| 天津 | 四二一 | 九二五 | 六一五 |
| 北京 | 一三六 | 三一四 | 二二〇 |
| 保定 | 三三 | 四六 | 三四 |
| 塘活及附近 | 三二 | 四四 | 六〇 |
| 山海關 | 二五 | 五〇 | 八五 |
| 其他 | | 四 | 一 |
| 合計 | 六五二 | 一三八七 | 一、〇二五 |

即ち男女計二千四百二人にして之を前月末に比すれば男八十五人を增し女九人を減せりといふ

●滿洲土地の轉貸借處分　從來關東州民政署は土地の貸下けに付借地人自身に家屋の建築を爲すへきものと見做し許可し來たり其借地人は他に轉貸をなす可からさるは勿論なるに是迄土地の借受けを爲したる者の中に往々轉貸借を行ひ轉貸人は不當の利益を貪り又轉借人は不測の損害を蒙むる事ありて其筋へ迷惑を持込み爲めに土地家屋の整理上一方ならさる障害あり民政署にては所謂土地の轉貸借なるものを認めさると同時に轉借人の建築せる家屋に對しては自然取毀はしを命せらるゝやも知れずと

●滿洲の赤十字社員　關東州及び其他の滿洲占領地に於ける日本赤十字社博愛の主旨を賛し入社したる社員は四月末日の調査に據れば五千二百十三人あり三月調の四千二百七十九人に對し九百三十四人を增加し内特別社員三十一人の增加なりといふ其地方別左の如し

四月末日調總社員地方別

| 各地方別 | 總數 | 特別社員 | 正社員 |
|---|---|---|---|
| 大連 | 一六七 | 一 | 一六六 |
| 金州 | 一四 | 〇 | 一四 |
| 旅順 | 一五 | 〇 | 一五 |
| 復州 | 二〇三 | 三 | 二〇〇 |
| 熊岳城 | 一五 | 〇 | 一五 |
| 蓋平 | 八三二 | 六 | 八二六 |
| 海城 | 二六八 | 八 | 二六〇 |
| 營口 | 三四三 | 五〇 | 二九六 |
| 遼陽 | 五〇一 | 一二 | 四八九 |
| 蘇家屯 | 六 | 〇 | 六 |
| 奉天 | 九八四 | 三一 | 九五三 |
| 鐵嶺 | 一四六 | 一 | 一四五 |
| 岫巖大孤山 | 二六七 | 四 | 二六三 |
| 安東縣 | 七一一 | 一三 | 六九八 |
| 鳳凰城 | 五六五 | 八 | 五五七 |
| 南[illegible]山 | 八 | 〇 | 八 |
| 不定 | 一六八 | 〇 | 一六八 |
| 計 | 五、二一三 | 一三四 | 五、〇九七 |

右の内營口の特別社員五十八人中には有功社員三名を含めりといふ

●本願寺の法要修行　當地本願寺出張所に於ては今回新市街地へ建築の新寺院へ安置すべき爲め過日本山より阿彌陀如來の本尊及び佛具等來着せしに付本日午後一時及八時(營口時間)の兩回に於て本尊御紐解法要即ち除幕式を修行せられ寺本布敎師が説敎ある由なるが明廿一日も本願寺の開祖見眞大師の降誕日なるを以て午後一時及び八時の兩回(營口時間)に於て祝賀の法要を修行せらるゝ由にて當日は參詣人一同へ供養の菓子と本願寺特製の紀念繪はがきとを贈與し又蓄音器及び幻燈器等を以て餘興を開催する由因に這回六字御本尊及び男子用婦人用の珠數も京都本願寺より來着せしを以て信念ある諸兄姉希望者へは何時にても頒與すとなり

●村井氏夫妻の出發　滿韓漫遊の爲め一昨々日來營せる村井吉兵衞氏夫妻は昨日關内外鐵道に由り當地を出發し天津に向ひたるが尙同氏は北京を經て京漢鐵道に由り漢口に赴く筈なりと

●太田憲兵大尉　新民府憲兵分隊長憲兵大尉太田直策氏は今度凱旋の途次此程來營金城ホテルに滯在中の處昨夜九時三十五分發列車にて大連經由本隊に歸還の途に就かれたり

●新入院患者數　一昨及昨日の定期撿黴に於て又も藝者酌婦にて廿三名の入院患者ありたりと云ふ不景氣の今日此頃斯くも入院者の多きは所謂數でコナス原因なるべきか鼻下長先生御注意然るべし

●八網丸破壞工事　一昨三十七年遼河々口ブツシユ商會の前方に於て軍艦筑紫と衝突し沈沒したる商船八網丸の破壞工事を當軍政署より潛水業者井上豹太郎氏に請合はしめたる事は既報の如くなるが今其後の摸樣を聞くに着々進捗しつゝありて既に上甲板全部及び右舷全部の破壞を終り昨今船体中部の全局破壞續行中にして遲くとも六月中を以て全体の破壞を完了すべき豫定なりと云へば船舶出入常に頻繁なる遼河の航路を安全ならしむるも近き將來にあるべく期待せらる因に同氏は昨年既に遼河々口に於ける沈沒船三光丸の破壞工事をも完了せし人にして今後右八網丸工事の傍ら一般の沈沒物引揚其他潛水を要する作業上の需に應すと云ふ

投書かご

▲物知顏博士先生閣下に多謝す閣下の高敎を得て凋落生遽に蘇色あり愛松も亦遠からずして蘇生せんなり然るに「センキウ」なる靈藥は營口の藥師屋を普ねく詮索すれども遂に空し想ふに是れ漢法藥には非ざるなき乎果して然らばチヤン藥店に就て求むるより外なけんチヤン名何と稱するにや漢字にて高敎を仰ぐ序に藥の外形も説明を得ば幸甚(凋落生)▲雪子孃に呈す孃は何ぞ營口を侮蔑するの甚しき萬更捨てたものゝみにあらざるとは唯我獨尊も此に至て窮れりと謂ふべしさはあれ翻つて孃の學歴と美貌とを以てして尙且つ目下の境遇に甘せざるを得ざる運命に同情の涙を濺がん哉(ブラツクスイ生)▲「春風や繪日傘の行く異人の子」殺風景な滿洲も大日の惠み景氣付出し隨て心も浮立つて來た自分も當地永世街翁亭に於て景品付の料理あるてふ事を貴社新聞にて拜讀し一度登樓して見たる所二等景品に當り濱縮緬一丈兵古帶一筋當りましたで「詐僞多々的」の今の料亭に似合ぬ正直なのに一驚した同亭の僞り無き事を投書欄を拜借して世人に示したいものです(平野町高島華才)

▲司法部近邊の旅館の犬は能く人に咬み付ますさういふ惡犬は早く撲殺して欲しいものです何うか憲兵さんサーベルで一つ願ひます(犬嫌男)

●元鴇色帽子殿の亂暴　亂暴を活潑と誤解して飛んだ迷惑を他に及ぼす馬鹿者あるこそ苦々しけれ名前は今度丈け特別で許してをかうが日露開戰後特別任務を命せられたる事ある元鴇色帽子の某殿二三日以前滿洲内地方面より當地に來りしが一昨十八日の夜友人を誘ひ何處にて飮食せしか痛く酩酊して散歩の途中二本町萬なをしに登樓し又も此處にてタラフク飮み喰ひしたる末其場に居合せたる藝者酌婦に對し猥褻の行爲に及ばんとせしを流石に酒席の事且つは娼賣柄とて風に柳と受け流して對手にならざるを尙も五月蠅くあられなき素振りを爲すより今は一同てらへ兼て見事三十三吋の肱鐵砲を喰はせしが某は大に激昂し猫の分際として苟も天下の豪傑に對し無禮な行爲イデ我手並を見せてくれんと其場にありしビール瓶皿鉢吸物椀と手當り次第に投げ尙も飽きたらず火鉢を投つけ座敷一面灰神樂と爲り同家の女共が騷ぎ出すを眺めて心地好氣に愉快々々と打興じつゝ朝の四時頃出て行きたる由なるがさりとては又亂暴極まる鴇色帽子殿と云ふべし

火車時刻

關内外鐵道

上り：營口發前八、二〇　七、〇〇　溝幇子同九、四五　九、〇〇　錦州同后三、四五　二、〇〇　山海關着六、〇〇　八、一〇

下り：山海關發前七、〇五　四、四五　錦州同后三、三五　二、〇五　溝幇子同三、四五　四、四〇　營口着四、五五　七、三一

山海關發前八、一五　五、〇〇　北京發前八、〇〇

東清鐵道

上り：新民屯發前六、〇〇　溝幇子着同九、一七　營口發前六、三〇　后九、三五　大石橋着同七、二〇　一〇、二〇

下り：溝幇子發后三、〇〇　新民屯着同六、一七　大石橋發前八、一五　后一一、一五　營口着同九、一〇　一二、一〇

諸鐵工製作
鑛山船舶機械
輕便鐵道附屬鐵工
營口 紐定商會
川喜 鐵工

從來すき燒專門を以て各位の御引立を蒙り候處今回大方樣の御勸めに甘へ料理を始め御一人前五十錢迄と定め至極御手輕に御銚子揃
營口二本
梅廼 田村瀧

西海洋服店
歐米各國最新流行形
(電話百二十)

天氣豫報
營口地方天氣豫報
南の風晴れ
自十八日午後六時至十九日午後六時

## 小說　新作小說　おとし胤（六十二）　德田秋聲

愈々園遊會の其の日となつた。幸に天氣も朗に、所謂十一月の菊日和。秋の氣爽に澄みきツて、何を見ても、また何處を見ても、晶明透徹。

「あゝ、實に天氣が好うて何よりぢや。」と心から快げに呟きながら、尚だ來賓の影も見えぬ庭を見廻ツてゐる海鹿子爵。裝飾屋が二日かゝりで飾ツた庭は、旗と幕とで包まれたかと思はれるばかり。而も園藝の嗜好ある子爵の指圖は、餘り多く庭の風致を損ねぬやうに手際好く飾られてゐる。種々の模擬店は、彼處の林の中に、此處なる芝生の上に、または築山の麓に頂にしつらへられて、鬼灯挑燈の紅は落葉して索寞たる庭の花とも見られた。只外觀ばかりで無い、午前十時を少し過ぎたばかりであるのに、全ての準備が整頓して、今や來賓の影を見るのを待つばかりとなツた。模擬店には藝者半玉が、三人五人づゝ配られて、合田家扶の如きは、御殿から庭へ、庭から御殿へ、廿日鼠のやうに馳廻ツて忠義振を見せてゐる。女と謂はず、男と謂はず、家に使はれてゐる者、出入の者は、或は臺所に、或は御殿に玄關に庭に廊下に、其の役目々々を働いて、見るから忙しさうである。特に優秀なる者をのみ撰抜した少年音樂隊も、既に乘込むで來て、庭の片隅なる天幕を出たり入ツたりしてゐた。女中等が立話に依ると、餘興の番數も多い。手品、長唄連中太神樂、お能、極めて日本的かと思ふと、またハイカラ振に、ピヤノ、バイヲリンの獨奏合奏もあツて、而も何れも斯道の名手を撰んだといふのであるから、珍らしい大掛りの園遊會と謂はなければならぬ。

固より海鹿子爵が、最後の思出の催しである。其の華麗、其の豪奢、所謂常識家の俗物を驚かさうといふのであるから、全てが思切ツた遣方である。それで全て内輪的といふことを嫌ツて、公然に堂々たる仕掛であツた。勿論從來海鹿家に何んの催があツても、此ばかり大袈裟なる催のあツた例が無い。

されば子爵夫人、母堂は謂ふまでも無い。數馬ですら、些か驚異の眼を瞬ツて呆れたのであツた。中でも母堂の如きは、光の愛に溺れた狂人沙汰、海鹿の家も末になツたと謂ツて、前の日から隱宅に籠ツたきりで、人の顏さへ見れば、悲憤の涙を見せてゐた。冷靜にして、傲慢なる夫人に至ツては、泣きもしなければ笑ひもせぬ。たゞ病と稱して、前の日から一歩も居間を出ぬのであツた。

雖然子爵は、一切無頓着である。母の、恐夫人の嘲、何處で風が吹くかといふ風に過ツて、斷乎たる態度、家扶老女を叱咤して、諸事思ふがまゝに行ツたのであツた。或る意味からいふと、實に痛快淋漓たる思があるやうに斷行した。所詮當年政界に於ける、傲骨にして辛辣なる手腕を家庭に於いて振はれたのであツた。衰へたとはいふもの、休息した火山は、事に觸れて火を噴いたのである。

家庭に於ける忠實なる子爵の同情者と謂ツたら、要するに數馬獨であツた。彼は能く子爵の人物を知り、性格を知り、識見を知り、主義を知り、理想を知り、而して公人として、また私人としての境遇を知ツてゐた。それでも餘り思切ツた今度の遣方に、最初は多少の杞憂を抱いたのであツた。雖然一夜子爵から、親族等の侮辱的談判、他の言を以ていふと、卑劣なる脅喝迫害を意味する傲慢なる忠告を受けた顛末と、此の示威的親族會議の謀主となツた嫂夫人の小細工を話された時は、何處までも感情的にして、公明を欣ぶ數馬は、深く子爵の意を諒として、嫂夫人を始め親族の措置を陋として、其の卑劣なる心情を惡むと同時に、絶對に子爵の意氣に同情するやうになツた而して子爵の思切ツた催しを豪快とし、自ら子爵の副となツた覺悟を以て大に會の準備に盡力したのであツた。固より彼自身既に非華族黨である。されば、子爵の覺悟を聞いては、何んの憚るところも無ければ、怖れるところも無い。母堂が涙ながらの硬意見も、何んの舊思想の糟は、犬も喰はぬと冷罵して、滅多無性と平民主義の福音を振廻したのであツた。此の如く海鹿家の園遊會の裏面には、二ツの潮流があツて、互に衝突し揉合ひ絶えずでたつきながら、遂に其の當日とはなツた。子爵の悦、滿足はいふまでも無い。數馬も大に得意であツた。子爵の悦、數馬の得意は、所詮母堂の涙、夫人の憤慨であツた。光に至ツては悦と悲と相半ばして、たゞそは〳〵してゐるばかり。

### 春雜吟　鍼葉

一本の土筆をめづる机かな
二三本土筆入れけり彈藥盒
新堤防や小さき土筆の所々
芹摘の歸りに土筆取りにけり
籃の目に頭出しけり土筆
芹摘むは驛長殿の女房なり
芹片荷片荷はき重田螺かな
芹摘の籃に手拭入て行く
芹摘に行けば蓬の多かりき
芹摘で飯は兄は汐干から
暖や硝子障子に蠅滑る
渡船に猿居眠るや暖に
暖やゝともすれば目まいする

## 告示

五月十四日第五、六回懸賞捕鼠抽籤執行の處其當籤したる番號左の如し

一、當籤者賞金受領に付左の通り心得可し
當籤者は五月廿五日迄に衛生局に至り當籤札と引替へ賞金受領す可し若此期限を經過するときは其當籤効力は消滅す

二、賞銀額
一等 銀五十圓　二等 銀十圓
三等 銀二圓　四等 銀一圓

譯文

本月十四日施行第五第六拈鬮鼠票得彩號月如開於左奏其得彩者五月廿五日以內各携原領執照往赴衛生局領銀可也若過期不赴領者將其得票爲廢爲此特示

賞銀額
一等 銀五十圓　二等 銀十圓
三等 銀二圓　四等 銀一圓

### 第五回捕鼠抽籤當籤番號

| 一等 | 二等 | | 三等 | | | | | | | 四等 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 三二四 | 八二 | 一一二二 | 三九五 | 八五三 | 八四九 | 六三八 | 三一四三 | 三三五〇 | 七八七 | 二一二八 | 八五七 | 二六六七 | 二四四三 | 二一八五 | 二八六 | 一九九四 | 七二 | 七〇三 | 二四七二 | 四六二 | 二三二〇 | 一九四一 |
| | 三二七六 | | 二八九四 | 二六〇四 | 二〇三五 | 八三七 | 二二九九 | 二八五 | | 九五三 | 五三五 | 二九〇〇 | 四五二 | 二八四八 | 二八二八 | 三五九四 | 六五三 | 五八九 | 三五九六 | 二一三八 | 四一 | 二八八九 |
| | 三五〇九 | | 二五四五 | 四一一 | 二八八三 | 九〇四 | 三二八八 | 三〇一二 | | 二二七九 | 二〇八四 | 一三七 | 三八九 | 六九 | 四三九 | 一九二三 | 六五四 | 一三七一 | 三〇九〇 | 三四〇九 | 一八五七 | |
| | 三三九一 | | 九三八 | 一八二七 | 三六一八 | 一四四六 | 二八三五 | 一八四八 | | 二五八四 | 九九三 | 一七五一 | 三二一四 | 七六七 | 二〇一六 | 二七八 | 一二九五 | 一九一三 | 四〇一 | 三一六六 | 一〇七九 | |

### 第六回捕鼠抽籤當籤番號

| 一等 | 二等 | | 三等 | | | | | | | 四等 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 四〇六 | 三〇八七 | 二〇六二 | 一二七一 | 四〇七 | 八五五 | 二三二四 | 四三〇 | 三〇二 | 三三二七 | 一九一五 | 一四〇四 | 二二七三 | 一三五八 | 二二五七 |
| | 三一八二 | | 二三九四 | 三一六九 | 三二六三 | 一八五二 | 二五一九 | 四〇九 | | 三〇三〇 | 三〇九四 | 八〇四 | 三二一二 | 一八六七 |
| | 九八九 | | 三一一〇 | 六五五 | 一三七〇 | 二九九〇 | 一八五三 | 三〇一三 | | 三四〇六 | 一八九五 | 三六一五 | 一七九三 | 三四七八 |
| | 四二 | | 一〇六一 | 二八六一 | 八七四 | 二八六五 | 一八五四 | 二一三一 | | 四四三 | 二二四八 | 一八八九 | 九〇五 | 三〇九一 |

## 告示

曩ニ公衆日本文電報ヲ取扱ヒシ滿洲各地通信所ニテ五月十五日即チ清曆四月二十二日ヨリ中國電報新編ニヨル清國文公衆電報ヲ取扱フコトナレリ其電報料左ノ如シ
一、滿洲各地並ニ韓國ニ到ルモノハ一句四字每ニ十錢トス
一、滿洲ヨリ日本ニ到ルモノハ四字每ニ三十錢トス
右告示ス
明治三十九年五月十四日
**營口軍政署**

## 告示

凡前所通達日本電報之滿洲各通信所今擬定自東曆五月十五日即滿曆四月二十二日起凡通滿國電報者可使用通行電報號碼特將電費開列於左
一、到滿洲各地並高麗每句按四字核算銀一角
一、滿洲至日本每句按四字核算銀參角
明治三十九年五月十四日
**營口軍政署**


廣告

●**森病院**
一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
▲患者の入院治療を諾す
▲貧困患者の施療は正午十二時より二時迄
▲姙婦の入院を諾す
院長　醫學得業士　森　（產婆大道しげ子）
副院長　醫學得業士　長船郁太郎
一本院齒科開設（五月一日より開始）
齒科醫　兒島市郎
森病院（電話一五五）

**競爭入札廣告中訂正**
五月十日附廣告の重燒麵麭二万四千箱を一万九千箱と訂正す
明治三十九年五月十六日
**滿洲軍倉庫遼陽支庫殘務取扱所**

**御披露**
今般左記之處へ支店開業仕候間御引立の程奉願上候
月　日
鐵嶺西門外火神廟六十一號
**支店　高砂ホテル**

**廣告**
二十日午後一時及び八時（營口時間）
御本尊御着御紐解法要說教
廿一日午後一時及び八時（營口時間）
高祖見眞大師降誕會法要說教
右兩日間法要說教修行致候間御參詣被成下度此段御案内申上候也
五月廿日　永世街　營口本願寺出張所


## 奬學彩票當彩號

頭彩 一九六五〇　附彩 一九六四九　一九六五一
二彩 一九七二〇　附彩 一九七一九　一九七二一
三彩 一九七四二　附彩 一九七四一　一九七四三
四彩 九五七　附彩 九五六　九五八

五彩
一一、八六七　一〇、〇一八　八、三三三　二、二六六　一一、二三八　二、六四二　九、六二〇
一〇、八二七　四、五六三　七、三五六　二、四二九　一七、七九四　一八、八三五　六四一
九、七七[illegible]　三、五四八　一七、〇二九　一〇、二二五　三二六　一、五〇八

六彩
一四、七六〇　八、〇六六　一七、〇二三　八、三七五　一二、四二〇　七、九一五　一二、九八〇　四、〇七六
六、五七五　一四、〇八五　四九一　一、〇八三　一七、五二五　一八、一七七　一二、一三五　一、九八八
八、六一四　一五、二四三　一三、六二一　一三、三二〇　一四、四二六　一二、九二九　七、二七九　一七、一九三
一五、八二六　一七、五五二　一四、二四九　一三、九八四　一、二四二　四、〇二五　一三、一〇五　一二、〇五三
一八、六四二　一六、五八五　一二、九八一　八、一八三　一三、九〇四　一四、六四二　八、七五二　六、〇三七

七彩
四、二三三　二六五　二、八五八　八、三二九　三、八六七　一八、九三七　一三、七二四　一、三四〇　三九九　六、一九三　一七、七六二　二、三五八　一六、二八九　一七、七九三　二、二三六　一六、五九二　一三、七七九　一四、八六一　八、一九五　[illegible]
一七、六五二　七、九九五　八、七九一　一〇、六九〇　一四、八三〇　一五、五一一　一四、〇八四　五、七〇三　四、〇七八　一八、九〇一　三、五八〇　一六、四八三　二、三八一　一一、〇二一　一六、七七四　一一、三四九　四、七五九　一九、八四二　[illegible]
三、二九九　七、八二七　一三、七〇四　一八、四〇四　八、〇二一　一六、〇二三　二、六一九　五、四〇〇　一八、三三七　一〇、三一三　二、二〇五　二、六九四　一七、五二九　七、五二八　一五、五〇八　三一七　三、二四三　一六、〇二〇　[illegible]
四、一五五　一三、五二一　一六、七三〇　一五、八〇七　二、四五七　四、五五五　一四、二六三　四、四一一　一、九五〇　三、八七六　一六、六六八　一〇、九六〇　九、九七〇　一七、一九一　六、五五七　一九、七九二　一九、三一三　一六、〇五八　[illegible]
三、一一三　七、五三五　一三、五六七　一八、四九二　四、七三一　一四、〇一六　一六、〇八五　一三、八七七　一三、一三一　一、〇二五　七一四　三、二〇五　三、七八一　四、八九四　七、一七　四、七二二　一五、五六〇　一七、九九三　[illegible]

八彩
[illegible]

五月十五日
**鐵嶺奬學義會**

三六〇　五、四六五　一七、六一八　一七、九三四　一九、六一四　一八、七二一　二、五六四　四〇　九、一八七　二、八八九　一、六八五　七、一九〇　四、五六二　九、五三八　一四、三七九　七、三七九　一八、四二〇　一八、七〇二　一四、五四四　一、二四五　六、三〇九　一九、一七四　三、五九〇　一六、〇二一　一九、〇五八　[illegible]
八、五八一　九、六五四　一〇、四二九　一六、七〇三　一四、〇三九　一九、一〇一　三、四五三　六、六六二　一三、七三七　一七、一九八　四五九　七、二五九　一三、六三七　九、四二四　七、六三七　[illegible]
一八、七八六　一五、一五四　一八、六二七　一二、一一八　一三、八七八　一四、七七八　一、三三〇　五、九九〇　一〇、四三一　六、〇六〇　[illegible]
一九、二二九　七、一四八　二、四七五　九、五三九　七、六三五　一、三三三　九、六一七　六、五九九　三、七九四　[illegible]
六、〇七四　三、九九五　五、七〇九　三、四四二　二、〇六三　七、三〇二　[illegible]

新荷着
▲板材木▲木炭
▲生石灰▲竹、疊
▲亞鉛板▲洋釘
▲日本米▲石材
營口永世街八十號
# 喜久洋行
（電話百五十二番）

# ペンキ塗請負 京阪組
營口豊濟門街李俊宅前
榎本康平

# 大日本政府特定
# 營口付紙捲煙草
# 滿洲一手輸入發賣
# 江副洋行
營口永世街

# 資本金參拾萬圓
日清合股
㊂
滿洲昌圖株式會社
# 營口分局
營口元神廟街第貳九八號

總局 盛京省昌圖府東街
既設分局 牛家屯車站、昌圖車站、四平街、通江口、大連、遼陽
本公司經官准認眞開辦左開生理
一、東清鐵道轉運
二、昌圖以北馬車運送
三、轉運貨物保險
四、抵貨匯兌
五、各支店所在地棧房

兼辦關內外鐵道又海外轉運（與大淸通運公司連接）東清鐵道沿路各站分局現方在設備中倘蒙遠邇貨客愛顧務祈貨客親自到本棧房及各處分局棧房面議爲荷特讓白價格途倘有水濕毀壞短少等之損傷本公司言明擔卸地市價包補此

第二回新荷着
恵比壽ビール
大日本麥酒株式會社
# 金舛洋行
# 盛進商行

# 美味安價西洋料理 牛莊亭
營口永世街五十二號鶴の湯東隣

御料理
板場新來了料理は高尚ト淸潔ト廉價ト輕便トヲ打テ一團ノ雪月花ノ會席ト仕餘ヘ御意ニ從ヒナンデモゲンシンピヨガイス
まつのや
新來の妾等東も西も南も北もわかりませぬもの何卒御引立を願ます
まつのや藝妓 ふで 松吉
仝 二〇か
仝 義太夫 小莊
御客樣方

イロハ索引附
小變 來原慶助君著
# 對譯清語活法
附錄 支那時文速知 全
東京市神田區裏神保町一番地 發行處 三省堂書店
袖珍用旭皮表紙頗る美釘紙數三百餘頁（定價金五十錢 郵税金六錢）
此書は著者來原慶助君が曾て陸軍通譯官として黑木軍に在りし際の陣中著述に係り高評嘖々たるは已に世人の熟知せる處刻下滿洲各地方に活動せらるゝの同胞諸君乞ふ一本を備置せられんことを

自造
煉瓦●瓦
並に各種石材販賣
營口青堆子
# 加州組
（電話八十六番）

東營口西北街
# 裕和盛
電話八番
東淸鐵道
遼河貨物運送業
# 雜貨商
新荷着
朝日ビール
日本酒澤の鶴
洋酒、食料品
和洋鑵詰、食器
內外煙草、葉卷
エジプト、文具
化粧品、金物類
肥前白米、醬油
酢、木炭、其外
色々
卸並に小賣
# 彩票
毎月 大連 鐵嶺 南洋 湖北 發賣
本店 長崎
支店 芝罘 鐵嶺 旅順 京城 仁川 木浦

洋國營口二本町二五五號
主任 鹽川峯吉
（電話一三六番）
料木 標子 木版 發賣
㊀
# 塩川商會
遼陽小西門內
鹽川商會
●建築
外に
電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
用材北海道產松大角（自二十五尺至三十尺）一万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

大勉強
一會席 三ツ鉢吸物附 御一人前銀三十錢より
一まめめし 御一人前二十五錢より
右之外御意に從ひなんでもいたし升
仕出しも仕候
營口元神廟街二〇九號
月日
# 翁亭

萬事勉強乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館
# 東京樓
店主 熊田兼次郎
（電話百七十八番）
和洋料理 國料理 東京樓支店
（電話四十四番）
西洋料理仕出し御需に應ず

M. Iizuka,
Contractor,
Architect and Civil Eginneer.
——
Plans and specifications made to order.
Estimates submitted.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

瀛船出入港案內
盛航丸 廿四日入港
能登丸廿日午正出帆門司直行神戶行
御乘船の御方は御一報次第切符持參仕候尙御手廻荷物當店送迎組へ御用命仰付被下度此段奉願上候

大阪商船會社荷客取扱所
汽船代理店貸借仲立
輸出入税關手續
解船人夫運搬請負
水陸輸送貨物仲次所
諸品委托賣買
倉庫業
西北街
# 德重洋行

大連市監部通二丁目五百廿五番地
# 高野孟矩法律事務所
但高野孟矩不在の節は辨護士戸口茂里代て事務を扱ふ
東京市京橋區南金六町十五番地
大阪市北區河內町一丁目六十七番地
追て當事務所々在の地は勿論仙臺名古屋靜岡橫濱宇都宮神戶廣島岡山福岡長崎等には事務上の聯絡を取結居候に付き右各地に於て處理す可き事件も當大連に於て御依頼に可應候

一、税關手續
一船舶輸出入荷物取扱、荷物保管
一日本郵船部、回漕部
一爲替附キ荷物ハ便利ヲ計リ可申候
一引換書御送附ニ相成レハ諸費立換ヘ配達或ハ保管可申候
市場北三階樓
時計店ノ二階
# 宮原公司

●そめもの洗張
第三樓（となり）
一見や

長曾龜之進
岩尾伊助
右之者同業組合員に對し物品代金不拂に付組合規約に依り爾後組合員中は該人と取引を謝絶す
明治三十九年五月
營口材木商組合

廣告
今般代々木商會ヲ辭ス
津田壽一

會席料理
# 三日月
營口警務課前南に入る

銘酒劍菱
新荷着

右劍菱印新荷着仕候に付多少に不拘御注文被成下度願上候也
遼陽停車場向と
池上出張店

和洋雜貨
# 盛進商行
新着
椅子 卓子。窓懸。
卓懸。花莚。マット。
油多加織。ビロードセン。

# 山口縣人親睦會廣告
來る二十日午後正六時營口時計より二本町日本館に於て第三回親睦會開催候間御誘引御出席被下度希望之至り候
一會費銀三圓當日御持參の事
一御出席の方は二十日正午迄に日本館へ御申込被下候
五月十七日
山口縣人會幹事

## 宮門抄

二十一日 外務部 欽天監 侍衛處值日無引見 溥偉假滿請安 王中堂等得賞暑葯謝恩 署理江寧提學使陳伯陶謝恩 莊浪城守尉倭和請訓 錫公因修墓請假兩個月 明誠錫廉伺候

召見 掌儀司奏二十九日祭

奉先殿着貝子行禮

召見軍機 明誠 錫廉 倭和

外務部遞封奏二件 巡警部 吳鈁遞封奏各一件

昨日封奏係陳慶桂誤寫陳恒慶迅即更正

## 上諭恭錄

二十一日奉

上諭江蘇徐州道着韓慶雲調補欽此

上諭山東按察使着袁大化補授欽此

上諭福建興泉永道員缺着曾廣銓補授欽此

上諭江西南昌府知府員缺緊要着該署撫于通省內揀員調補所遺員缺着于齊慶補授欽此

## 奏議

盛京將軍趙奏酌設各地方裁判糧稅專員並定地方官行政權限摺

奏爲遵擬酌設各地方裁判糧稅專員並定地方官行政權限以通民情而理庶政恭摺仰祈

聖鑒事竊光緒三十一年七月二十四日准政務處咨具奏議覆侍郎沈家本條陳時事一摺奉

旨依議欽此鈔錄原奏咨行遵照前來查講求內治必以修舉民政爲先周官於訟賦稽察鄉黨諸職均設專官東西諸國於地方裁判警察徵稅勸學諸務下及村區亦莫不有官以理之治民之官多而且專且司法行政分爲兩事不相牽混是以職業易舉而界限易清奴才詳繹政務處及沈家本原奏亦皆注重地方議分民職仰蒙

聖明採擇行令籌議將來中國治理躋隆古之盛而抗東西諸國之强者必基於此奉省紛爭甫戢民氣彫殘教養撫綏尤爲急務且兵燹之後百端待理事同草創亟應變通民職漸重鄉治上副

朝廷勵精圖治惠養元元之意惟立法必先因地圖成要貴植基謹就奉省情形酌擬數端敬詳晰陳之

一令地方官專司行政以專責成也凡屬於行政之事如巡警緝捕衛生工程農桑學務等類皆歸地方官專管其地大事繁者添派巡警官一員學務官一員幫同治理仍歸地方官節制其不勝任者地方官有稟撤之權 一省會及各府廳州縣分設裁判所以別等級也查東西各國裁判均有官專所以示司法行政截然兩事不相牽混今仿其意擬於州縣設初等裁判所府直隸廳設中等裁判所省會設高等裁判所皆隸於司法局每所各設正審官一員訟牒繁劇者酌設陪審官一二員凡初等裁判所不能審結之案准其控訴中等裁判所中等不能審結者准其控訴高等裁判所惟民事刑事之分中國素未講求應俟試辦以後詳訂專章另案奏明辦理現在法律之學尚少專家訴訟之繁日所恒有所有正審陪審各官應仍歸地方官督率如有不勝任者准其稟撤以恤民艱而重治本 一特設稅務糧租兩官以分職任也徵收租稅爲理財專責事至繁瑣各國皆設專官擬請將現在之各項稅捐總局均改爲稅務行局並附設分局量地勢之繁簡定分局之多寡並於府直廳地方設糧租行局於州縣地方設糧租分局均派專員辦理所有旗民糧租皆赴局完納各旗民地方官毋庸干預其地方簡僻者糧稅亦可併爲一局此外尚有鹽法行局鹽法分局皆任理財之責與財政局之稅務糧租鹽法三科內外相維或可收綱舉目張之效 一分別國稅地方稅以振庶政也中國征斂之法名目繁瑣可統名之曰稅而稅之中實有國稅地方稅之別如稅課錢糧等類凡解部之款及由省支銷之款皆爲國稅應由稅務糧租鹽法各局解省備用其截留地方辦事之款如車捐燈捐巡警捐之類皆爲地方稅除紳董經收者不計外凡各局代收之欵仍令照案解交各地方官以備公用 一分設諸曹以輔治理也漢唐郡縣均有分曹沿襲至今變爲書吏無俸無獎善者不爲擬飭各府廳州縣按照所司行政事務分設諸曹選用稿生以人品謹飭姿性聰敏字畫端楷略通文理算法幷無嗜好者爲合格無論本籍外籍有無出身皆可充當將來各小學堂學生不能入中學者亦可酌量選用位置每月分別正副司書名目酌給津貼如著有異常尋常勞績亦准一律請奬以資鼓勵劣者隨時革換另於署內設立要籍曹酌派委員或幕友充當以代門丁其揀選格式奬懲辦法照諸曹辦理 一設宣澤館並籌議鄉官辦法以求民瘼也各國議院之制中國未能驟行然必先通商民之情乃可徐收興革之效擬飭各屬公舉士紳設立宣講 聖諭公所名曰宣澤館先考求日本市町村制度並中國舊行之保甲章程各就本地情形籌書鄉官辦法每逢一五日各地方官率同紳商演講地方利弊並鄉官義務此外官署應辦之件民間不便之情皆可會同討論統限一年後將鄉官實力舉辦以立地方自治之根本此館重在培護商富宣布 德意開導士紳通知新政似擬置急於奉尤切至鄉官辦法奴才於護理山西巡撫任內業已奏陳其奉省就地情形有須斟酌變通者當另訂專章辦理以昭審愼 一籌加地方官津貼以肅官常也奉省向有州縣廉俸本已不敷重以各項攤捐及各差支應廉潔之吏勢難自存貪黷之風因之啓熾奴才於奏陳籌辦善後摺內已聲明現擬裁汰攤捐省改支應以蘇官累惟既議將糧稅另設專員徵收該政局於整頓稅契項下提欵作爲地方官之用俟擬定數目奏明立案其務稅糧租巡警學務各專員擬請暫行優給薪水俟試辦有效設立額缺再行奏明辦理 以上七條皆爲酌改地方官治理起見似此變通損益權限攸分庶官無廢事之虞而民裕自治之本實於安民察吏之道大有裨益是否有當請旨飭下政務處核議施行所有遵擬酌設各地方裁判糧稅專員並定地方官行政權限各緣由謹會同北洋大臣袁世凱恭摺具奏伏乞

皇太后 皇上聖鑒訓示謹 奏

## 東京電報

### ●協定境界委員之任命

此次日政府欲與俄國協定樺太境界問題以陸軍砲兵大佐大島健一君爲該委員長以渡邊砲兵中佐以下三名爲委員云

### ●日本外部大員之異動

日本外相現開缺即以駐英林大使調任外相以外相小村君爲駐英大使以前駐韓公使林君爲中國公使以外務次官珍田君爲奥國公使現駐京內田公使即襲珍田君之後任云（以上西五月十九日發）

## 中外要聞

●日允俄人漁業權 日政府今認許俄國在樺太島得有長期漁業權已由日本外務省照會駐日俄使俄使卽於西本月九號謁晤日本外務侍郎珍由氏面談一切

●南非洲德官報告軍情 據上月德國伯林接德領南非洲來電云該地德軍與該處摩連哥酋長戰鬪德兵大爲失利其時共戰數禮拜之久嗣後即以步兵編成派遣隊率帶機器砲前進據聞德國駐南非洲之提督月前於議院席間演說曰我德國軍隊均謂摩連哥酋長爲野蠻然予查得該酋長能操荷蘭國話而服英國衣式兼有才能且聞該酋長在德領地因極有田產由是觀之乃德軍之大誤也又據德國議院於第四次補充軍費豫計七百四十萬馬克又征討費之總額計一萬五千萬馬克云

●戶部設電話公所 聞戶部鐵尚書會同張大司農紹英侍郎前擬在本部監印處設立電話公所一處辦理軍國要事因電話事繁擬咨調商部學生二名優給津貼以資備用一切經費由公欵項下撥用以備嚴密而免洩漏

●議抽鴉片稅章 現聞總稅務司議定增收土葯捐項章程計每百斤繳稅厘五十八兩外加膏捐十二兩已由總稅務司抄錄章程送外部轉知戶部備文咨行各省督撫關道稅司查照辦理矣

## 北京電報

### ●吉長鐵路罷議

日前吉林將軍達帥電奏擬建設吉長鐵路不日將起工外部以爲違背中日協約刻已歸罷議云

### ●中英追加條約

此次中英締結之藏約特設追加條項云若有他國派遣兵員於新疆伊犁即英國亦當派軍隊於西藏備保護之任（以上西五月十九日發）

## 雜報

●造使僞票犯案 昨聞東署人云東海樓南某客棧寓有王張崔及忘其姓之某甲共四人外有同夥數人分住於牛家屯鐵路等處販購十元之僞手票若干到處行使於本埠買得土藥綢緞珍貴物品幷換銀圓已使出千數百枚前宵王向西街宿妓夜資十元賞錢二元用手票兩枚找去銀洋七元次日始知手票俱僞該妓秘未宣揚詎王來宿夜該妓乃暗告本區巡捕捉獲送交衙署經日官拷鞫實供即將張崔及某甲掩獲并搜出土藥綢緞銀圓一切統直其鉅迨往牛家屯緝捕其同夥等已皆預遁無跡矣或聞其造僞票之根基係匿居於烟台沿海僻處語云揚湯止沸不如去薪若不絕其根株難免又往他處行使遺害於人云

●演說述要 日昨爲本埠萬國演說會期會政魏牧師特煩代理道勝銀行某洋員講演地球行度及天文一切兼有鳌捐幇辦霈君典生講演水學氣學化學大略嗣經潘君玉田趙君水如再演國民捐義務以資提倡會友到者甚多頗足見該會之日有進步云

NEWCHWANG, SUNDAY, MAY 20, 1906.

Stranded as we are at this outlandish retreat in Manchuria far away from the eddy of political undercurrents ever at war about Peking, one thing is too apparent on the surface in the recent Imperial Edict appointing two Directors-General of Customs.

It was a piece of work, we may say peculiarly Chinese, but one China by herself would and could never think of doing unsupported or more correctly without being egged on to it. The purport of the Imperial Edcit read so wild that at the first news, we merely put the matter aside as a false report to be followed with a contradiction. But, when we had to believe it for an actuality, an explanation of the affair by the Peking Government was already abroad, by which the dignity of the noble document has been torn to shreds.

Would it in any wise expedite the arduous work of the venerable head of the Chinese Customs to change the address of his reports from the "overworked Wai-Wu-Pu" to the two Directors-General of Revenue, who, for all their wonderful capacity for work, are both already as overworked as any other member of the Wai-Wu-Pu?

This is indeen a little too much even for China who demanded a voice in the Portsmouth Conference and again proposed to claim damages for life and property wasted by Japan during the late War.

Some mischief-maker must be active at China's back.

The Japanese gunboat "Akagi" made her entry into port yesterday, afternoon 2 days ahead of the date previously announced and has cast anchor just below the Customs.

Mrs, H. A. Bush who was staying with her little daughter at her father Mr. McGlew's at Kobe since last winter is expected here at the port to day by the s.s. "Yeikomaru."

The family of Mr. Tao Ta Chun (陶大均), President of the Foreign Board Mukden, with their suite of escorts and servants numbering 20 in all, arrived from Peking last Friday and will leave for Mukden this evening.

Mr. Frank Meyer, the American explorer, came back from Dalny last Friday and is at the "Manchuria."

Mr. S. Takahashi, the new Japanese ViceConsul, arrived here last Friday morning.

We hear that the postponed riding excursion to Ta Ping Shan (大平山) this side Tashihchao will come off to day. Two carts with supplies for an enjoyable picnick spread have been already sent there.

The excursion party will be comprised of Mr. and Mrs. Ross-Thomson, Mrs. Thuder, Messrs. Bauer, H. F. Bush, Moore, Sargent, Jaspersen, and Pingle.

They will start on a 30 mile ride from the Customs Mess at the South Gate at 7.45 this morning. Fine weather being assured, we wish them a day's delightful outing.

Telepeone stations for public use will be opened on the 1st prox. at the following 3 places, between 7 a.m. and 9 p.m. every day; the light railway ticket offices at the 2nd Market Place, the westeru terminus of the line; at the East Gate; and also at Niuchiatun Station.

10 sen will be charged for every communication, for which 10 minutes is the maximum length of time to be allowed.

Mr. Schiff and his party sailed from Yokohama for Vancouver on the 18th inst. Count Inouye, Mr. Takahashi, President of the Nippon Ginko and several other noted financiers accompanied the departing visitor to Yokohama to see him off.

By a supplementary article to the AngloChinese Thibetan Treaty Great Britain reserves the right of dispatching troops into Thibet in order to protect it, in the event of some other Power sending soldiers into the territory of Ili and Hsinkiang.

The work on the proposed railway between Changchun and Kirin which had been already started by the Tartar-General of Kirin was suspended by instructions from the Waiwupu, which regarded it as a violation of the Japan-China Treaty.

The torpedo-destroyer "Hayakaze" under construction at the Osaka Iron Works will be launched on the 22nd inst.

According to a statement made by a member of the Tokyo Chamber of Commerce, the project of promoting the Manchurian Exposition is likely to fall through.


## 廣告

啓者敝館現在擬定推廣報務新增機器以便印刷各種册籍單張凡大而書籍廣告傳單及小而商報名片等類皆能妥實迅速定期取件並能代譯日英各文一切紙料悉從東洋自行運到各式既全價尤廉減較之取購本處者其價目格外公道 貴官商賜顧無論何件均可訂印且不拘多寡一律定價以廣招徠務乞隨意惠臨面訂一切可也

滿洲日報帳房謹啓

## 營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館料理 第一樓 營口ホテル 元神廟街九十六號（電話八四番）

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號正金銀行西三程

料理 千鳥 元神廟街百三十三號 店主 吉住善藏

料理 沖の島 永世街百六十四號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館料理 高砂ホテル 高砂亭 西北街（電話一四五番） 店主 片山小みつ

旅館 大和館 永世街三十四號（電話十一號） 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 登瀛門街第百〇四號 店主 田島彌助

料理 まんなをし 永世街字三本町三百五十九号 店主 和田常松

和洋料理 公樂園 南永世街

旅館料理 金城ホテル 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

料理旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 喜樂亭 營口平野町

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街
さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

御料理 並ニ温泉 一力 毎日新湯 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 松月亭 營口元神廟街一四三号 住松信大益

料理 都樓 平野町 店主 坂本ちか

## 奉天旅館料理屋案内

商人御定宿 瑞豐館 奉天小西關大街北側 館主 河野嘉吉（電話 號）

會席御料理 高等御旅館 温泉付大勉强キレーブライシヒ 天神樓 奉天小西關大街北側（電話 號）

旅館料理店 日盛館 奉天小西關大街南側 館主 入江熊男（電話 號）

旅館料理店 梅松館 奉天城内灰市街東華門宮殿東側 館主 押尾富次郎（電話 號）

御料理 梅ケ枝 奉天小西門より一丁西の辻北入 館主 辻井ムメ

高等御旅館 茂林館 奉天小西關大街路北（電話二十五號）

旅館料理店 牛肉すき燒 雞肉 日章館 日章亭 奉天小西關大什字街南へ入（電話 號）

旅館料理店 旭館本店 奉天大西關 旭館支店 奉天十間房 館主 原田新吉（電話 号）

御旅館 瀋陽館 奉天小西門外大街路北

## 遼陽旅館料理屋案内

さるそば 更科 營口支店 奉天小西門外金城館前

旅館料理業 日營ホテル支店 主任 林德松

御料理 會席 菊水館 主任 朝枝園挺

旅館 西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

旅館 料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理 會席 末廣屋 主任 山根初之丞

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館 御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 御料理 玉家 主任 西野治三郎

和洋料理 御旅館 滿洲ホテル 遼陽西街西門二七号 上松榮治郎

今有賓州廳之東老營口街永增盛郝俊卿於二月初旬在哈爾濱上火車被匪人將遂帶銀元包壹個計洋拾五元内有奉天德源布櫃存錢條一紙計瀋錢五萬八千三百吊其條上註期至四月初一日見條付錢因此條已失本號今在省至期業將存錢如數使出倘失之原條日後稍見來討即作廢紙勿付切切

奉天 天然清水氷發賣廣告
倉庫 每倉庫約 二十五万斤
特約一万斤以上
右發賣仕候間至急申込相成度候
奉天小西門外内 大仁洋行

**爲替相塲**（五月十九日）
日本向 百〇二圓（電票百圓に付）
上海向 七十二兩四分ノ一（同）
天津向 一百〇三圓八（百弗に付）
芝罘向 一百〇三圓五十錢

**日本品最近物價表** 加藤洋行
紙類
一半紙 一〆 二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙 全 七圓五十錢
一仙花紙 一帖（六十枚） 六十錢
一全 狀袋 二十枚續 三錢二厘以上四錢
室内裝品飾及寢具 矢野洋行
一滑圓 三枚組 百枚 十三錢以上十八錢
一座ブトン 十帖 六圓九十錢以上六十五圓
一疊 二圓六十錢以上三圓
一薄縁 十枚 八圓
一麻綛通 疊敷 三圓
一綿綛通 全 三圓五十錢
一由加多織 全 一圓七十錢

一和洋御料理 遼東館 遼陽城内東街
本館は遼陽城内第一繁盛の地にあり内外人往來頻繁なり今般四方紳士諸君の御勧に依り宏荘美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得へく廣間も御座候に付ては續々御光來被成下度花客諸彦に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候

旅館 御料理 扶桑館 奉天大西關大什字街 第五分局千〇六十八号 館主 堀田ハル 電話 号

和洋 會席 御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
各位樣
營口永世街二本町 日本館（電話百三十）

古料理 滿月 平野町（電一六二）
滿月支店 平野町入口 店主 青木勝惠

取扱
一稅關手續 一倉入貨物
一船舶貨物 一貨物保管
一日本帆船 一委托販賣
營口永世街市街鐵道驛前
心 精心洋行 主任 岡本嘉吉

質屋營業
精々勉强御便宜相計り可申上候間多少に不拘御仰付け被下度願上候
營口永世街南塞第三十六號 北斗洋行質屋部

支那叢書 第壹編 **支那政府組織** 全 定價一圓
清國の情況を知るは現下の急務なり清國の情況を知らんと欲せば先づ組織の眞相を知らざる可らず老帝國政府の眞相を知らんと欲せば乞ふ斯書を一讀せよ
軍人諸君には特に一割引とす部數に限りあり至急御申込あれ
販賣所 營口重盛街 滿洲日報社

各國高等雜貨 電話百五十四番
新・荷着
歐米各國高等化粧品、新流行夏帽、靴旅行用鞄各種、籐製寢臺、椅子、御婦人用小間物種々
其外珍敷品澤山
營口永世街 小[illegible]洋行雜貨部

新・荷着
**高等麦酒スペシヤルライト**
スペシヤルライトはピルスナビーヤにして原料精撰風味高尚夏期唯一の好飲料なり
醸造元 大日本麥酒株式會社
滿洲特約販賣店 營口元神廟街 關東公司雜貨部（電話五番）

（營口永世街）
**回天堂三木大藥房**
存案 天 招牌
經營項目
●各種靈驗丸散膏丹
●東西兩洋各種藥材
●各樣玻璃瓶子
●各種繪具染料
●消毒及繃帶技料
●肥皂（胰子）牙粉白粉香水等貨
●醫化諸學所用機器
●照相所用藥料及機器
●此外醫藥應用所有一切等貨一應俱全
（電話百九十番）
凡所備置各貨均皆實心撰擇料正品務期平價發兌而廣招徠如蒙仕商賜顧者或面議或函購或托辦均必認眞辦理無誤 耑此佈告

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ケ月前金 銀八十仙
半ケ年前金 銀四弗八十仙
一ケ年前金 銀九弗六十仙